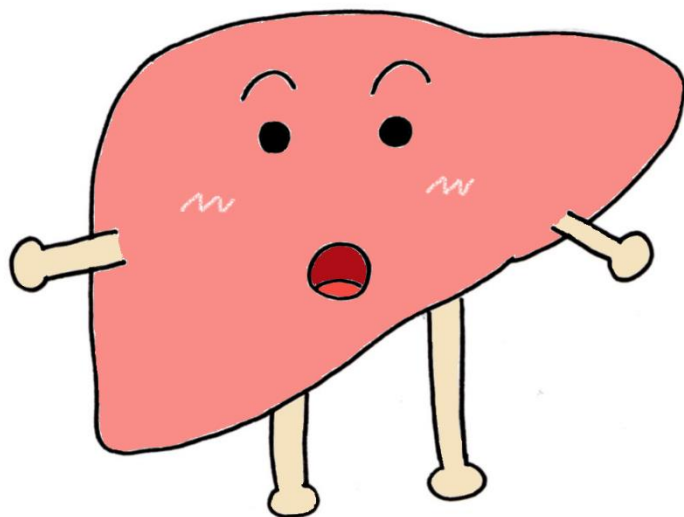


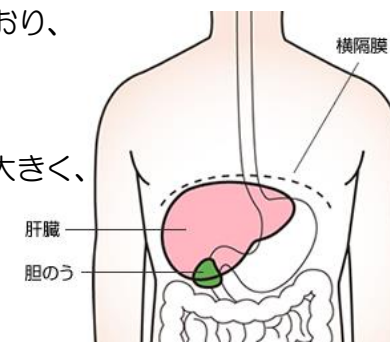
検査説明パンフレット

肝機能検査



肝臓とは

肝臓は、お腹の中心から右寄りに位置しており、
成人男性で 1200~1400 g、
成人女性で 1000~1200 g あります。
体重のほぼ 2.8% に当たり、体の中で最も大きく、
最も重い臓器になります。



肝臓のはたらき

肝臓は原料を化学反応によって加工する工場のような役割をしており、その動きは大きく分けると 3 つあります。

①代謝 (たいしゃ)

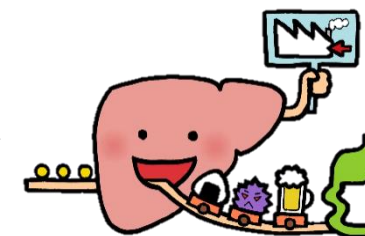
食べ物から摂った糖・タンパク質・脂肪を体内で使える形に変えて貯蔵し、必要な時にエネルギーのもととして供給します。

②解毒 (げどく)

アルコールや薬、老廃物などの有害な物質を分解し、身体に影響をおよぼさないように無毒化します。

③胆汁 (たんじゅう) の生成

肝臓でつくられた老廃物を流す“胆汁”を生成・分泌します。



食べ過ぎによる肥満やアルコールの飲みすぎが原因で、肝臓が炎症を引き起こしたり、脂肪の蓄積した状態（脂肪肝）になったりします。肝臓は病気になっても症状が出にくいので、日頃から生活習慣に注意することが重要です。

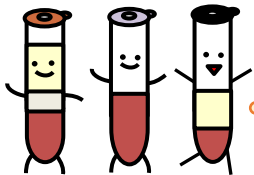


検査項目

【血液検査】

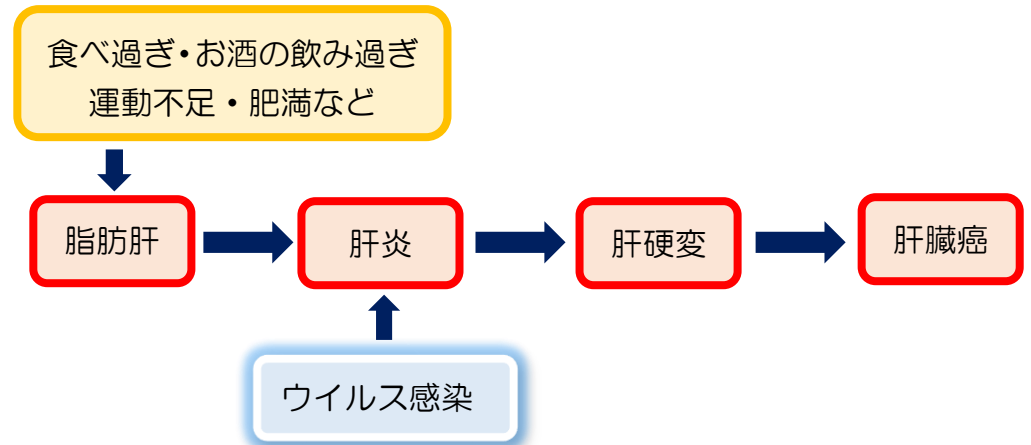
AST (GOT) 基準値 13~30IU/L	肝臓の肝細胞内でつくられる酵素です。心臓や腎臓などの臓器にも多く存在するため、数値の増減が必ずしも肝臓に関係しているとは限りません。そのため、ALT も一緒にチェックする必要があります。
ALT (GPT) 基準値 男性 10~42U/L 女性 7~23U/L	肝臓に一番多く存在している酵素で、肝臓の病気の診断に欠かせない検査の一つです。何らかの異常で肝細胞が破壊されることにより、血液中に漏れ出します。その数値が高いということは、それだけ肝臓が障害を受けている状態と言えます。
γ-GTP 基準値 男性 13~64U/L 女性 9~32U/L	タンパク質を分解・合成し、肝臓の解毒作用に関係している酵素です。お酒の飲み過ぎ・肥満や薬などにより、γ-GTP がたくさんつくられ、数値が上がります。
LDH (LD) 基準値 124~222IU/L	肝臓に多く存在し、肝臓の細胞が傷ついたりすると血液中に放出される酵素です。肝臓の病気以外にも、白血病やそのほかさまざまな臓器の病気、妊娠や年齢でも数値が上がります。
ALP 基準値 38~113 U/L	肝臓をはじめ、腎臓などの体のさまざまな細胞でつくられる酵素です。肝障害により、胆汁中に存在するALPが血液中に漏れ出し、数値が上がります。
ALB 基準値 4.1~5.1 g/dL	肝臓だけでつくられるタンパク質で、血液中のタンパク質の半分以上を占めます。肝臓の機能が低下すると数値が下がっていきます。

その他に、コリンエステラーゼ、総コレステロールなどの検査項目を参考にすることもあります。



CT や超音波(エコー)などの画像検査を行い、血液検査の結果と合わせて診断されます。

肝臓の病気



脂肪肝

食べ過ぎ、お酒の飲み過ぎなどの生活習慣により、肝臓に脂肪が蓄積している状態です。

脂肪肝から肝炎、肝硬変、肝臓癌へと進行する可能性があります。

肝炎

肝臓に炎症が起こり、発熱や黄疸（おうだん）、全身の倦怠感等の症状をきたす病気です。日本では約 8 割の肝炎がウイルス性と言われています。

肝炎ウイルスには、A 型、B 型、C 型、D 型、E 型などがあります。

A 型・E 型肝炎ウイルス：主に水や食べ物を介して感染

B 型・C 型・D 型肝炎ウイルス：主に血液や体液を介して感染

肝硬変

肝臓に慢性的に炎症が起こり、肝細胞の破壊と再生が繰り返され、徐々に線維化が起こり、肝臓本来の細胞の構造が破壊されていきます。

肝臓癌

肝臓の細胞が、がん化する“原発性肝癌”と、ほかの臓器で発生した癌が肝臓に転移した“転移性肝癌”に分類されます。